

ボーイスカウト教育 4つのキーワード

新藤 信夫

スカウト教育の基本である次の4つについて、指導者は常に念頭におき、「ちかい、おきて」の実践と共に 日常のスカウト活動の中で実現できるように努めていただきたい。

1、人格を高める

「ちかい」の最初にあるように『神と国とに誠を尽くす』ということは**神仏を敬う心**いわゆる**徳性**を持ち、自分の生まれた国で、**誠実な良い国民になり**、しかも同時に**グローバルで通用する人材**になれるような**人格・品性づくり**を目指しております。最近では、**思いやり教育**として**セーフ フロム ハーム**を展開推進しております。

2、健康な身体作り

この年代は特に発育が盛んな時期であり、身体に土台ができる時期でもあります。スカウト活動における野外活動（アドベンチャー）は、新鮮な空気、気温の変化、天候の変わり方などによる**自然現象への適応性を養う**ことができ、然も校庭や競技場を「場」とするより「**広大な自然をステージにする**」ことから、**スカウト達の健康作りに貢献**でき、更に大自然への脅威を感じる事から**信仰心の芽生え**も狙えます。

3、知識・技能作り

人が生活をおくる上での不可欠な知識・能力には、青少年時代に大きく伸ばせるもの、或いはその下地を作るものが沢山あります。

「ちかい」にある**「いつも他の人々を助けます」**や**「おきて」の「親切、質素」**といった行いには、**「知識や技能」が備わっていない**となし得ないこともあります。更に可能性の発見という見方からすると「僕にもできる」「こんなことも僕にはできるんだ」といった自覚や自信に結び付くこととなります。この発見は青少年期における劣等感を払いのける原動力になるばかりでなく「よし！やってみよう」という**勇気・希望**と**新しい挑戦**が生まれてくることでしょう。スカウトは「**技能章**」といった**進歩科目に挑戦**することにより「**自分の将来も仕事を選ぶ**」ことができるような**素地をつくりだす**ことにもなります。**B-P卿は「行う事によって学ぶ」と**言いました、**人格は筋肉を通して作られる**という言葉に似ていませんか

4、奉仕を通して社会貢献

「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするように、そして報いを求めぬよう」と日本連盟初代の後藤新平総長は申されております。これが「奉仕」という事の本旨であって**スカウト教育の骨子**ともいえます。この運動では、スローガンとして「**日々の善行**」を掲げており、「**一日一善**」も行われております（**良き市民性の養成**）